

ロープワーク マニュアル

基本的な結び方

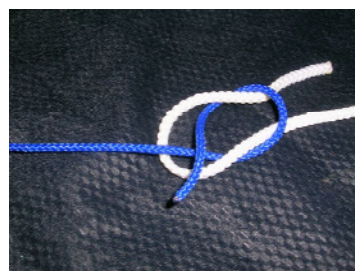
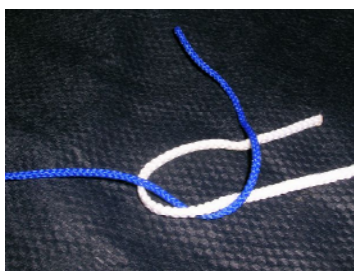
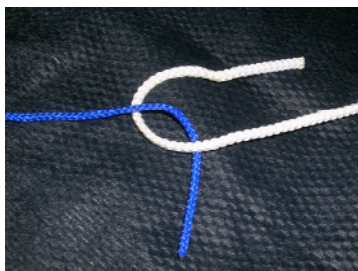


XRQ技研 (XRQ Tech Lab) 2011.06

1, 本結び(Reef Knot) 真結び・細(こま))結び・女結び

2本のロープをつなげる結び方です。風呂敷などで物をくるむときやスカーフを結ぶときなどさまざまな場面で使われています。よく似た結び方に縦結び(諸(もろ)結び・男結び)があります。結び方は同じようですが、縦結びにしてしまうと解くときに難渋してしまいます。Reef(帆をたたみ込む)という名前のように2つのロープが互いに折りたたまれているような構造をイメージするとわかりやすいと思います。

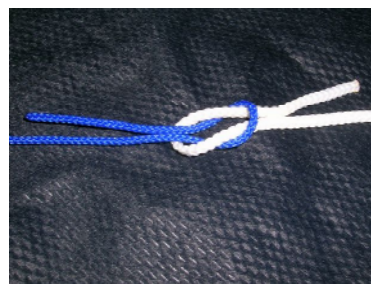
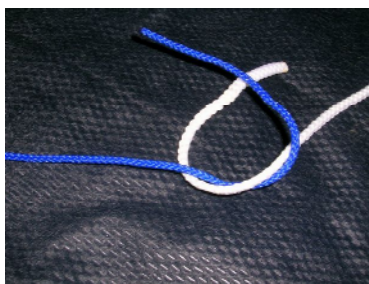
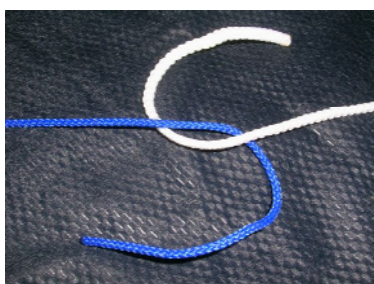
○折り返したロープにもう一方のロープを通して、結んでみましょう。



○交差し、一方の端を他方の周りに一回りさせます。

そのとき、2本の端を内側同士が接するように一方の端を輪の中に通すと**本結び**です。

外側同士が接するように一方の端を輪の中に通すと**縦結び**になります。



内側同士を合わせると
本結び(女結び)

外側同士を合わせると
縦結び(男結び)



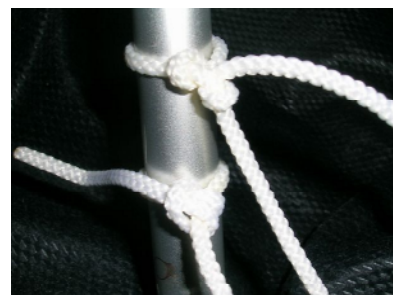
○**本結び**は解くときに、一方のロープが真っ直ぐになるように伸ばすと、もう一方がそのロープに巻き付いた形になるので、滑らせて外すことができます。



2, ふた結び (Two Half Hitch)

ものにロープを結びつける時の基本的な結び方のひとつです。

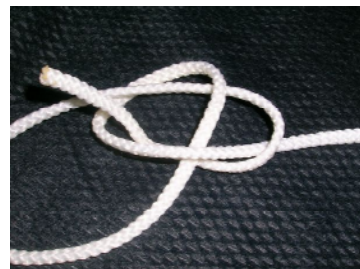
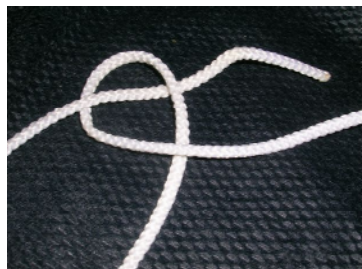
結ぶことも、解くことも容易にでき、しかもゆるみにくい特徴があります。構造的には後ほど出てくる「ひばり結び」の最後の部分が逆になるだけですが、ふた結びの方がしっかりと結ぶことができます。



3, もやい結び (舳い結び・Bowline)



船をもやっておくときに使われる結び方です。輪を作って、引っ張ってもその輪が締まってこないののでさまざまな用途に使われています。強いテンションがかかると解けてしまうことがありますので、結んだ後の端をひと結びなどの処理をしておくとういでしょう。わかりやすく、きれいな結び方ですので「結びの王」と呼ばれることもあるようです。



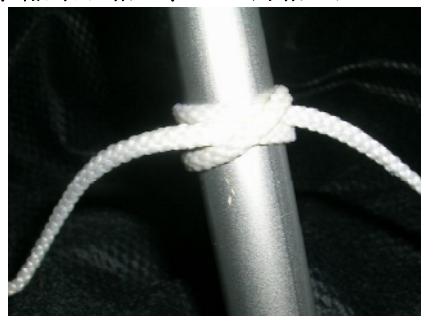
4, 巻き結び (CloveHitch マスト結び、インクノット、船乗り結び、止め釘結び)

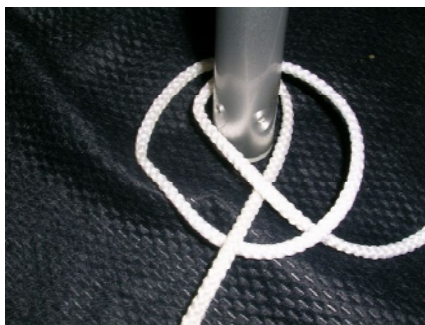
杭などにロープを結びつけるときに使われます。二重の輪を作り交差させてその輪の中に杭などを入れれば結ばれてしまうので、スピーディーな作業ができます。二重の輪を交差させずに杭などに通すと「ひばり結び」



になります。巻き結びとひばり結びでは、杭などへのテンションが異なります。

この結び方も、結んだ後の端の処理をひと結びなどで行うことで確実性を増すことができます。





巻き結び

すぐ結べて解くのも簡単

昔、インクピンの口を結んでつるしていたとか

ひばり結び

左右対称の輪を作り折り返した中に杭を入れる



5, 8の字結び・二重8の字結び

ロープの末端にこぶを作りたいとき、止め結びを使いますが、より大きなこぶで解くとき解きやすい結び方が8の字結びです。

ロープを折り返して二重とし、二重のまま8の字結びをすると輪を作ることができます。この輪も、もやい結びと同様、輪が締まってきませんのでさまざまな用途に使われ、もやい結びよりも確実性が高いと、登山などでも使われています。

また、立ち木などにロープを取り付ける際、あらかじめ手元に8の字結びを作っておき、立木を回した端を8の字結びの中を逆に戻ってくるように通すと二重8の字結びとして輪の中に木を取り込んだ結びになります。

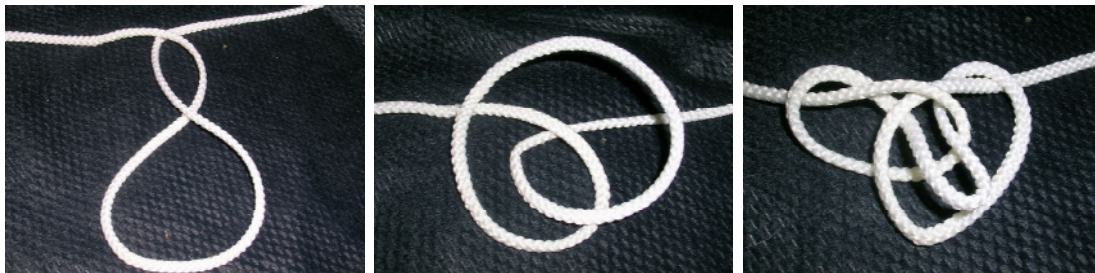


6, 蝶結び (Butterfly Knot)

本結びを解きやすくした「ちょうちょ結び」とは異なり、ロープの途中に輪を作る結び方です。ロープの途中で二ひねりして、一つ目のひねりの輪の中に元のロープを回り込むように輪の先端を



くぐらせます。ロープが引かれると輪の根本が強く締められるので輪が小さくなることは少ない結び方です。



7, プルージックノット

輪にしたロープを杭などに二重に巻き輪をくぐらせて固定します。テンションをかけることで二重に巻かれたロープが固定されるので、いろいろな物を吊すことができます。巻き付けるだけでするので作業も簡単です。

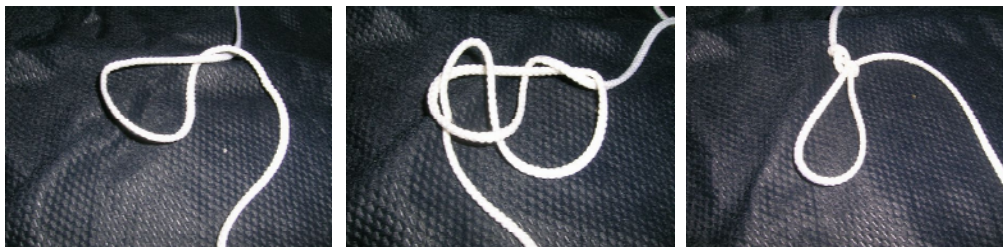


8, トラッカーズヒッチ

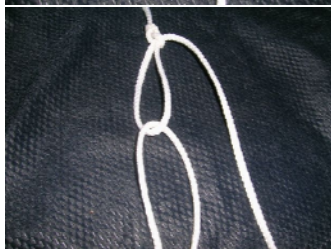
滑車を使ってロープを締め付けるような働きをするロープワークです。

テンションをかけたいロープの途中を二重にひねり、その輪の中に手前のロープを通して輪を作ります。この輪が滑車のような働きをし、固定端から戻ってきたロープを通してテンションを強くします。必要なテンションになったら固定端側のロープ全体をふた結びなどで処理します。

同様な結び方で、ロープの途中を二重にし、ひねった輪の中に差し込むことで滑車のような働きをする部分を作るやり方もあります。この場合、できた輪の部分は一回ひねってから固定端からのロープを受け入れるようにします。



① 輪に通して滑車を作る方法



② 輪の口を結んで滑車を作る方法



9, ロープをつなぐ結び方

同じ太さのロープの場合には本結びなどが使えますが、太さの異なるロープの場合には別の結び方が必要になります。

フィッシャーマン結び (Fisherman's Knot)

互いのロープの端に止め結びを作るようにして、止め結びの中に相手のロープを入れてしまいます。両方のロープが引かれることで止め結び同士が密着し、2本のロープを結ぶことができます。



一重つぎ結び・二重つぎ結び

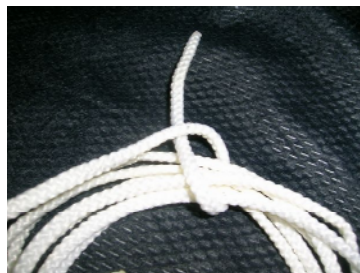
太い方のロープを折り返し、その中を通ってきた細い方のロープが折り返したロープを締め付けます。締め付けを二重にした結び方もあります



10, ロープのまとめ方

細いロープは手のひらに巻き付けたり、肘と手のひらの周りに巻き付けてコイル状にします。長いロープの場合は両手でロープを伸ばし、その長さを片方の手でまとめるようにしてコイル状にします。

端の処理は巻き結びのようにしてもよいのですが、ロープ本体を杭に見立ててふた結びの要領で結ぶとロープの流れも乱れないセイラーマンズ・コイルを作ることができます。



下側を通して一巻きし、巻いてきたところに挟み込む